

福井県

福井県 農林水産部 中山間農業・畜産課
地域事務局：一般社団法人福井県まちづくりセンター

CASE STUDY

事例



ふくい米粉ブランドを目指して 新たなビジネスの創出

プロジェクト創出に至るまで

- ▶「米どころ福井」の県産米は価格低下や消費量減少などの課題に直面しています。プラットフォームでは、その課題解決を図るため、「ふくい米粉ブランド」を立ち上げ、消費者の目にとまる県産米粉商品のデザインなどを統一した形で販売するビジネスについて話し合いを重ねました。
- ▶一過性の米の消費アップに終わらせるのではなく、持続的な取り組みとするため、地域事業者の利益につながるビジネス化に向けて、クラウドファンディングなどの取り組みを進め、自走化を目指します。
- ▶事務局「(一社)福井県まちづくりセンター」の持つネットワークを生かし、製造、販売、流通、学生、菓子工業組合、食品加工研究所などのパートナーが集まり米粉共創プラットフォームを形成。一つの目標に向かい、米どころ福井ならではの課題解決に取り組んでいます。

LFP
パートナー数
41
社・団体
2023.12現在

左：戦略会議の中で、異なる米粉で作ったカップケーキの膨らみや食感の違いを体感し、米粉の特性を学ぶワークショップを実施しました。

右：(株)大津屋が県内の県産米粉商品を统一的に販売するために、LFPパートナーが開発した米粉商品の包装パッケージを作成しました。



STORY

プロジェクトの進行過程

長期的な視点で、
地域が活性化する
取り組みを目指して
いきます。



福井県 農林水産部
中山間農業・畜産課 6次産業化G 主事 松浦 知諒さん



2023年8~10月

1
研修会・戦略会議

県内での米粉活用推進のため、農業者や食品加工業、県内展開のコンビニ店、老舗の菓子店、料理研究家、地元高校生が参加。ワークショップでは、地域固有の食文化の話を通して、米粉ビジネスの可能性について話し合いました。

2023年10月

2
プロジェクトの
誕生

県内にコンビニ店を展開する(株)大津屋を中心として、米農家や地元高校生、料理研究家などが連携し、米粉ブランドを活用する新たなビジネス創出に着手しました。



2023年12月

3
商品開発の工程

(株)大津屋は手軽に食べられる自社のコンビニで販売する米粉商品の開発に着手。あわせて、地元高校生、料理研究家と協働で米粉ピタパンの試作や調理工程等の検討を重ね、販売にあたってはコンビニの惣菜等を挟むアイデアも出しました。



2024年2月

4
試食会の実施&
テストマーケティング

今回開発した米を連想させるデザインコンセプトのパッケージや、ピタパンについては、プラットフォームメンバーの意見やアドバイスをもちに、ブラッシュアップを重ねました。



VOICE

プロジェクトメンバーの声



株式会社大津屋 ふるさと支援事業部
中尾 勝利さん

多世代型プロジェクト 生の声を生かした 商品化など新たな展望

米と米粉の消費拡大につなげていくため、生産農家と菓子製造業、地元の子育てグループ、デザイナーなどが中心になり、さらに「探求の時間」で米粉を研究している高校生も参加し、多世代多業種でプロジェクトに取り組んでいます。いろんなジャンルに分かれている米粉の商品を统一的にブランディングするため、パッケージなどのイメージ戦略も含め、意見交換とブラッシュアップを重ねています。商品自体については、県産米粉を使ったシフォンケーキ・フィナンシェ・クッキーなど洋菓子系にシフトし、パッケージと一体となった商品化を視野に入れています。LFPに参加して気づいた課題は、多業種それぞれの思いをどのようにまとめ、どうお客さまに届けるのかということ。一方、さまざまな生の声を聞けることは多業種参加のメリットだと思います。生産者さんの声を生かした商品化や売り方を考えるなど、新しい展望が開けています。